

続・ふるさと

柔道整復師の法制化に奔走した人①

第18回

柔道整復師の法制化に

奔走した人①

昨年の秋ごろだったと思うが、群馬県のある市の図書館から「萩原七郎さんの子孫の方は、現在でも芳賀町に住んでいるかどうか」と照会があった。

萩原七郎さん？祖母井の誰の家だろうか：数件の萩原さんの家がある。早速住民課の戸籍担当へ調査を頼んだ。群馬の図書館から送られてきた資料の写真を見たときに、若いけどどこかで見た顔だと思った。

住民課からの連絡で萩原利光先生のお父さんであることがわかった。群馬の図書館から送られてきた資料を持って萩原利光先生宅を訪れ、来

訪の趣旨を説明し、後日連絡があるかも知れないと話をし、たくさんある資料を見せていただいた。萩原七郎さんは、私財を投じて柔道整復師の法制化に奔走尽力された方でした。昭和20年の東京大空襲により住まいは火災に遭い焼け出されて、縁を頼って祖母井町大字稲毛田に住居を構え、柔

道整復師を始められた。私が小学生のころ、骨を痛めたときなど、萩原先生のところへ父に連れて行かれ、先生に見ていただいたことを思い出した。祖母井に移られても幾度か先生のお世話になったことがあった。診察室にあった「武醫同術」の達筆な扁額を思い出す。



▶萩原七郎氏

編集後記

□9月1日、広報9月号の発行日は、子どもたちが長い夏休みを終え、新学期を迎える日でもあります。
□大人になるとあつという間に過ぎ去ってしまう夏も、子どもの頃は長く感じられたものです。宿題が終わらず自分の無計画さを悔やんだ夏、部活動に明け暮れた夏…。平成の子どもたちはどんな夏を過ごしたのでしょうか
□日本の夏。その歴史のなかには悲しい戦争の記憶があります。現在の日本人の大半が戦争を知らない世代となりました。過去の悲しい歴史を繰り返し返さないように我々大人が自覚し、子どもたちに伝える責務があるのでないかと、○年前の夏、終わらない宿題に悪戦苦闘していた小学生は感じるのです。

(廿)



※写真提供：矢澤高史氏(宇都宮市)

(頭胴長さ60~70cm) 尾長さ40cm

スマートな体形で、胴体部分の約半分の長さの長い尾が特徴。耳が立っているのだからみると野犬と見違ふこともある。

草地や森林に住み、夜行性の動物であり、タヌキ同様に巣穴で春から秋にかけて家族群れで生活している。全国的(本州、四国、九州)に海岸から高山まで分布し生息するが、北海道ものは「キタキツネ 亜種」として区別する。

餌は、通常は肉食性であるが植物質も摂るので環境適応性が優れている。人里に降りて、飼鶏やウサギなどを襲うこともある。

足跡が直線的なのが野犬と異なる大きな特徴で、耕起した畑地や積雪上ではよくわかる。敵に遭遇すると、直線的に素早く逃げて、時々後ろを振り返り様子を見る習性から、人をだますとの迷信がついた。

■編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス <http://www.town.haga.tochigi.jp>
■苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898

